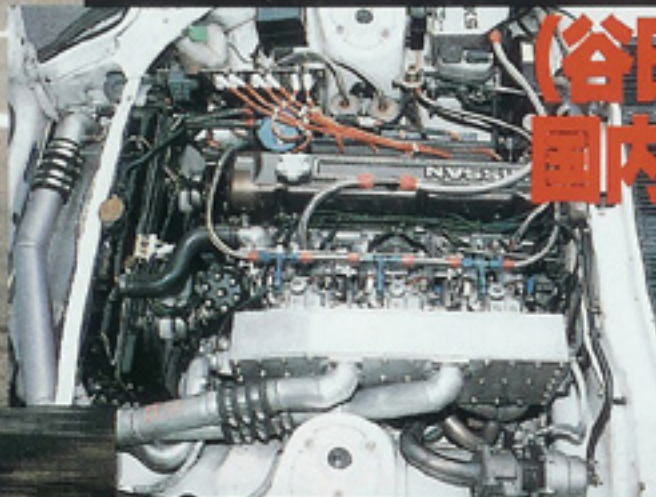


最高速大図鑑

(谷田部最高速) 国内チューンドカー



最高速はチューニング・ポテンシャルを如実に証明する

OPTの創刊以来続いている最高速チャレンジ。すべて谷田部の日本自動車研究所でテストされている。谷田部のばあい、最高速データが生まれるかどうかはバンクでのスピードが鍵を握っている。バンクを抜けてから加速したとしても、いかにハイパワー化したターボ車でもスピードは伸びない。ストリートカーベースのマシンとしては、どれだけバンク内のスピードを高めるかがポイントになるのだ。バンクの設計速度210km/hを100km/hもオーバーするのだから、ドライバーに不安を持たせるクルマは、まず良いデータが得られない。シビアな足まわりが要求されるのだ。逆にいえば、多少エンジンパワーが劣っていても、足まわりがしっかりしていれば、好データが得られることもある。そしてパワーに匹敵するほど重要なのが空力だ。しかしストリートマシンではボディ改造も限られる。やはり、トータルバランスに優れたマシンでないと最高速チャレンジの資格はない。

'86ル・マンに挑戦した日本勢の成績といえば、ハッキリいってイマイチ。やはり世界の壁はとて厚かったということになるかもしれない。来年の活躍に期待だ。サルテサーキットの中で、6kmものストレートを持つユーノディエール(昔のミウルサンヌ)のデータで、耐久レーシングカーの実力を揮わせてもらおう。もちろんレーシングカーは最高速用にセッティングされたものではなく、走る、止まる、曲がるの3要素の次元の高さと耐久性に注目だ。今回は谷田部のストレート、ル・マンのストレートで記録された最高速を大比較。それにしあって国産チューンドカーの速さって凄いな。

(ユーノディエール・ストレート最高速) ル・マン仕様レーシングカー

ヨースト・レーシング
タカQ ポルシェ 956

もう翼をつけなくてもぶっ飛んで行きそうな、374km/hをマークしたヨースト・レーシングの956であります。84年、85年と総合で2連勝したこのポルシェは、昨年も372km/hの最速を記録したがことしは374km/hノモチロン、コースレコードだ。